

ブロードウェイミュージカル『コーラスライン』 バーヨーク・リーにスペシャルインタビュー！



ブロードウェイミュージカルの金字塔『コーラスライン』（原題：A Chorus Line）。

トニー賞で全9部門を制覇したほか、ピューリッツァー賞など各賞を総なめ。ブロードウェイ初演は1990年4月までの約15年間続き、当時の史上最長ロングランを記録し、世界各国でも空前の大ヒットを記録した、まさにミュージカルの金字塔である。8月からの7年ぶりの来日公演を前に本作のコニー役オリジナルキャストであり、今作では演出・振付・再編成を務めるバーヨーク・リーに話を聞いた。

——『コーラスライン』の生みの親である演出家・脚本家のマイケル・ベネットは、どんな方でしたか？

私たちがダンススクールで出会ったのは10代の頃でした。数年後『Here's Love』（1963年）というブロードウェイのショーでダンサーとして共演した時、彼は二十歳前後というキャリア初期なのに「ダンサーとしてはやりきった。自分は演出家・振付家になる」と決意していたんです。

とても驚いたけど、同時に誇らしくて嬉しかった。ダンサーは振付家と切っても切り離せない関係ですが、私たちマイケルの仲間はその時点で、今後ずっと創作をともにできる「同世代の振付家」に出会えたんですから！その証拠に、あれから50年以上経つ今も、私は彼の作品とともに人生を歩んでいるんです。

——『コーラスライン』創作初期のお話をぜひお聞かせください。

（テレビやロック音楽などポップカルチャー隆盛期である）70年代当時、ブロードウェイミュージカルは瀕死の状態だと言われていました。ダンサーが多く雇われるような昔ながらの大規模なミュージカルは、予算の関係で敬遠されていたんです。そんな時、マイケルが「その話をしたいんだ。僕たちダンサーの生きざまを未来につなげるために」と、ダンサー仲間を集めたトークセッションで口火を切り、自分のダンサー人生について語り始めたんです。

——それが作品の原点になったんですね。

ええ。ダンサーを夢見た子供時代、キャリアのこと、家族のこと、現在や未来への悩み……。1日ばかりのとりとめのない、気心のおけない仲間だけが集まった私的な会話の連続でした。「これが本になるか、映画になるか、芝居になるかは分からないけど、何かの形にして残したい」とマイケルは言い、オフ・ブロードウェイのパブリックシアターに企画を持ち込んだんです。

私も彼の振付助手としてその場にいて、自分の若い頃の話をしました。それがそのままコニーのエピソードになったんです。

NEWS RELEASE

——『コーラスライン』では、マイケル・ベネットが手がけた構成・演出・振付はもちろん、楽曲もとても心を打ちます。

マーヴィン・ハムリッシュが最初書き下ろした“*What I Did For Love*”を聴いた時、崩れ落ちそうになるほど胸が震えました。これこそ、俳優でありダンサーである私たちの真髄で、生きる目的でもある。あの曲は、その想いを見事に表現してくれています。

“*At the Ballet*”も作品のターニングポイントになった大切なナンバーです。当初は「ミュージカルプレイ」と銘打たれ、ダンサーが語ったさまざまなエピソードの羅列にすぎなかった『コーラスライン』の原型が、あの曲の誕生とともに「ミュージカル」としての高みへ昇華したんだと、マーヴィンとマイケルはよく話していました。

——そして、1975年にニューヨークで誕生した伝説のミュージカル『コーラスライン』が、43年の時を経た2018年に7年ぶりの再来日を果たします。

これまで日本で多くの作品に関わってきたので、私にとって日本は第二の故郷。『コーラスライン』を愛してくださる皆さんや、若い世代の観客にこの作品を観ていただけるのは本当に幸せです。『コーラスライン』はブロードウェイミュージカルの歴史の一部。ですから初演の設定を変えることなく、当時のままのエネルギー、次世代のダンサーたちのからだところを通して、皆さんにお伝えしたいと思います。

『コーラスライン』は、世界中どこでも、いつの時代でも、観客の皆さんのところを震わせることのできる作品だと思います。それはきっと、「夢を叶えようとすることの苦しみと喜び」は誰しにも共通する感情だから。夢を追いつけることは、人間のさがなのでしょうね。私はそう信じています。

バーヨーク・リー (BAAYORK LEE)



演出家・振付家・女優。ニューヨーク州・ニューヨーク出身。1975年のオフ・ブロードウェイ初演およびブロードウェイ初演に〈コニー 役〉のオリジナルキャストとして出演。同作でダンスキャプテンも務め、その後、アメリカ国内外のさまざまな『コーラスライン』再演で演出・振付を手がけたほか、2006年のブロードウェイリバイバル版では初演版オリジナル振付の再構成を担当した。2017年、演劇界における長年の功労者に贈られる〈トニー賞イザベル・スティーヴンソン特別賞〉を受賞。2004年にナショナル・エイジアン・アーティスト・プロジェクトを設立し、演劇界におけるアジア系アメリカ人アーティストたちの支援と後進の育成に寄与し続けており、その功績が高く評価された。

そしてバーヨーク・リーとは違う角度から、『コーラスライン』の魅力伝える特別番組の放送が決定した！来日公演のオフィシャルサポーターである女優の真矢ミキがその魅力や見所に迫る。7月7日（土）15:30～TBS（関東ローカル）にて放送予定。詳細は後日発表される。

さらにバーヨーク・リーが出演したNHK「奇跡のレッスン」3時間スペシャル、ミュージカル編の再放送も決定！名門演劇部の高校生に『コーラスライン』を指導する！放送は3夜に分かれているのでお見逃しなく！！

報道に関するお問合せ（株）キョードーメディアス TEL 03-3407-8105

うんりいん
雲林院

unriin@kyodotokyo.com、佐藤 medias1@kyodotokyo.com、川島 medias-kawashima@kyodotokyo.com

NEWS RELEASE

ブロードウェイミュージカル『コーラスライン』特別番組放送決定！！

真矢ミキの

夢に挑んで ～人生を変えたコーラスライン～

7月7日(土) 15:30～16:00 TBS (関東ローカル) にて放送予定！

※放送変更・休止になる可能性があります。

再放送決定！！

NHK Eテレ「奇跡のレッスン」3時間スペシャル ミュージカル編

第1部：7月12日(木) 22:00～22:50 「挑戦！高校生版“コーラスライン”」

第2部：7月19日(木) 22:00～22:50 「思春期のモヤモヤを表現に変えよう！」

第3部：7月26日(木) 22:00～22:50 「人生に脇役はいない」

※各放送日翌週の月曜(日曜深夜) 0:45～再放送あり。

【公演概要】

公演名：LION presents ブロードウェイミュージカル『コーラスライン』来日公演2018

(生演奏 / 英語上演 / 日本語字幕あり)

日程：2018年8月15日(水)～26日(日) 東急シアターオーブ(渋谷ヒカリエ11F)

チケット：S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥9,000

2018年8月29日(水) 神奈川県民ホール大ホール

チケット：S席¥12,000 A席¥10,000 B席¥8,000

2018年9月5日(水)～9日(日) 東京国際フォーラム ホールC

チケット：S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥9,000

※全席指定・税込 ※未就学児入場不可

お問い合わせ：キョードー東京0570-550-799(平日11:00～18:00 / 土日祝10:00～18:00)

10名様以上の団体販売お問い合わせ キョードー東京 03-3407-8155(平日10時～18時)

主催：TBS／キョードー東京／ぴあ

特別協賛：ライオン株式会社

後援：アメリカ大使館／BS-TBS／TBSラジオ

地方公演：

[浜松公演] 2018年8月30日(木) アクトシティ浜松 大ホール

チケット：S席¥12,000 A席¥9,000 B席¥6,500

お問合せ：テレビ静岡 事業部 054-261-7011(平日9:30-17:00)

[大阪公演] 2018年8月31日(金)～9月2日(日) オリックス劇場

チケット：S席¥12,000 A席¥8,000 B席¥6,000

お問合せ：キョードーインフォメーション 0570-200-888(10:00-18:00)

公式WEBサイト：<http://www.ACL2018.jp>

報道に関するお問合せ (株) キョードーメディアス TEL 03-3407-8105

うんりいん
雲林院

unriin@kyodotokyo.com、佐藤 medias1@kyodotokyo.com、川島 medias-kawashima@kyodotokyo.com